

## 相愛学園歌

大木 惇夫 作詞  
山田 耕彦 作曲

一、生駒山 <sup>いこまやま</sup> みどりすがしく <sup>うる</sup> 美はしや <sup>まな</sup> わが学び舎

<sup>あおぞら</sup> 青空のしるべをし <sup>あこがれて</sup> <sup>やすらひを讃へまし</sup>

あらし世 <sup>よ</sup> の人 <sup>ひと</sup> のため <sup>ああ</sup> <sup>そうあい</sup> 相愛 <sup>おとめ</sup> の乙女われら

<sup>た</sup> 立ち <sup>よ</sup> 寄るや <sup>さら</sup> 沙羅 <sup>き</sup> の木 <sup>かけ</sup> のかけ

二、淀川 <sup>よどがわ</sup> や <sup>みなわ</sup> 泡沫 <sup>い</sup> ながれて <sup>み</sup> 生き <sup>つね</sup> の身 <sup>な</sup> は <sup>き</sup> 常 <sup>な</sup> なきもの

<sup>おお</sup> 大 <sup>みひかり</sup> なる御光 <sup>つつ</sup> に <sup>ま</sup> 包 <sup>つた</sup> まるる <sup>さい</sup> は <sup>ひ</sup> を <sup>つた</sup> 伝 <sup>へ</sup> まし

つら <sup>よ</sup> き世 <sup>ひと</sup> の人 <sup>ああ</sup> のため <sup>そうあい</sup> <sup>おとめ</sup> ああ 相愛 <sup>おとめ</sup> の乙女われら

<sup>た</sup> 立ち <sup>よ</sup> 寄るや <sup>さら</sup> 沙羅 <sup>き</sup> の木 <sup>かけ</sup> のかけ

三、茅渚 <sup>ちぬ</sup> の海 <sup>うみ</sup> 潮路 <sup>しお</sup> 静 <sup>しず</sup> けく <sup>あか</sup> 明 <sup>とも</sup> るしや <sup>とも</sup> わが友 <sup>どち</sup> どち

<sup>おし</sup> み教 <sup>した</sup> へ <sup>まも</sup> を慕 <sup>ともし</sup> ひ <sup>つ</sup> つ守 <sup>つ</sup> り <sup>つ</sup> つ <sup>つ</sup> 灯 <sup>つ</sup> び <sup>つ</sup> を <sup>つ</sup> か <sup>つ</sup> かけ <sup>つ</sup> まし

<sup>くら</sup> 暗 <sup>よ</sup> き世 <sup>ひと</sup> の人 <sup>ああ</sup> のため <sup>そうあい</sup> <sup>おとめ</sup> ああ 相愛 <sup>おとめ</sup> の乙女われら

<sup>た</sup> 立ち <sup>よ</sup> 寄るや <sup>さら</sup> 沙羅 <sup>き</sup> の木 <sup>かけ</sup> のかけ



平成27年度

第71回

## 相愛中学校入学式

平成27年度

第70回

## 相愛高等学校入学式

日時

平成27年4月5日(日)午前10時

会場

相愛学園本町学舎講堂

## 式次第

開式のことば

真宗宗歌 (斉唱)

献灯 献華

献香 偈 (聖歌隊)

献香

学校長焼香 (持念礼拝)

敬礼文 (聖歌隊)

三帰依 (次第取・合掌礼拝)

入学許可認証

新入生総代宣誓

念珠授与

献華 偈 (聖歌隊)

新入生代表献華

念 仏

恩 徳 讃

新入生代表焼香

奏楽・消灯

学校長式辞

理事長祝辞

学園長祝辞

本願寺派総長祝辞

学園歌 (斉唱)

閉式のことば

## 真宗宗歌

真宗各派協和会 作詞  
島崎赤太郎 作曲

一、ふかき<sup>のり</sup>み法に あいまつる

身の幸<sup>さち</sup> 何にたとうべき

ひたすら道を ききひらき

まことのみむね いただかん

二、とわのやみより すくわれし

身の幸 何にくらぶべき

六<sup>ろくじ</sup>字のみなを となえつつ

よのなりわいに いそしまん

三、海<sup>うらと</sup>の内外の へだてなく

みおやの徳の とうとさを

わがはらからに 伝えつつ

浄<sup>みくに</sup>土の旅を 共にせん

## 念 仏

南無阿弥陀 阿弥陀 南無阿弥陀 阿弥陀 南無阿弥陀仏

## 敬礼文

Na-motassa bha ga-va-to a ra-ha to sam-mā-sam bud dhas-sa  
ナモタッサバガヴァート アラハート サンマサン ブッダッサ

## 三 帰 依

Bud - dham sa-ra-nam gac - chā - mi  
ブッ ダン サラナン ガッチャー ミ

Dham-dham sa-ra-nam gac - chā - mi  
ダン マン サラナン ガッチャー ミ

San - gham sa-ra-nam gac - chā - mi  
サン ガン サラナン ガッチャー ミ

## 恩 徳 讃

如来<sup>によらいだいひ</sup>大悲の 恩徳<sup>おんどく</sup>は

身を粉<sup>こ</sup>にしても 報<sup>ほう</sup>ずべし

師主<sup>ししゅちしき</sup>知識の 恩徳<sup>おんどく</sup>も

ほねをくだきても 謝<sup>しゃ</sup>すべし

## 献灯

み仏に光をささげること示します。灯は迷いの闇を照らすみ仏の知恵の光をあらわします。

## 献華

み仏にお花をささげること示します。お花は、私たちが絶えまなく支え育み下さるみ仏の慈悲の心をあらわします。

## 献香

一般にはみ仏により香りをお供えて礼拝する意味で行いますが、浄土真宗では、わが身心を清めさせていただく意味で行います。